

共同募金会と教育機関が協働、全国初に注目集まる

# 人になれ奉仕せよ

## 関東学院、校訓のもと福祉へ貢献

神奈川県共同募金会 八木 明

横浜市金沢区の学校法人・関東学院と、社会福祉法人・神奈川県共同募金会が、ともに手を携えて、募金運動を推進していく共同宣言の署名式が今春行われました。教育機関と募金会の連携・協働は全国で初めてです。福祉の充実へ、学院が組織を挙げて、貢献をさらに深めていくのが願いです。署名式の模様は全国の共同募金会関係者の集まりでも発表され、福祉関係者から注目が集まっています。協働の意義と、すでに始まっている取り組みをご紹介します。



小河 陽 学院長



共同宣言の署名式



署名の行われた  
共同宣言



校訓が刻まれた石碑  
＝横浜・金沢八景キャンパス

共同宣言の署名式は、関東学院大学横浜・金沢八景キャンパスで4月18日に行われました。式には、関東学院から増田日出雄理事長、小河陽学院長、中央共同募金会から斎藤十朗会長、神奈川県共同募金会から牧内良平会長の3者4人が出席して共同宣言を発表、宣言書に署名しました。

挨拶の中で、増田理事長は学院の掲げる校訓「人になれ奉仕せよ」を挙げ、「社会に役立つ人を育てるのが目標です。これからの活動への指導を期待します」と抱負を述べました。牧内会長は、「協働により、福祉に対する理解が深まり、

それを担う若者が育つことに大いなる意義があります」と期待を述べました。斎藤会長は「学生、生徒たちにボランティアや地域貢献に参加してもらうことは、

## 学院の1万5000人児童、生徒、学生ら 対象に地域も巻き込み

後日、インタビューを受けていただいた小河学院長は、学院挙げての参画の意義、期待を次のように述べています。「関東学院には、ゼロ歳児から預かる認定こども園をはじめ、小・中・高校、大

学、大学院まで約1万5000人の児童、生徒、学生たちが通っています。昨年、創立130周年を迎えました。学院では日ごころから、キリスト教の精神に基づく高邁な人格を備えた人間形成を目標に掲げています。その精神を体現するのが『人になれ奉仕せよ』の校訓です。生涯にわたって学び続けることで、他者を理解できる『人』になり、『奉仕』という実践を繰り返すことで、人格が磨かれていく、という関東学院の教育理念を表す言葉です。社会に役立つ人を育てるのを目標としています。

今は、ともすれば自分たちの利益を重要視しがちな傾向を見受けられますが、そうではなく、社会全体の利益、福祉を考えていきたいと願っています」

## 募金仕様のボールペン制作、収穫野菜を 食堂に活用計画も

協働の取り組みは、まず始めに、赤い羽根共同募金仕様のボールペンがあり、全体をプロデュースして作り上げました。ボールペン本体に、福祉の心を訴えるイラストとメッセージを印刷してあります。ゼミ生が音頭を取って、イラストとメッセージの候補を考え、それをキャンパス内の投票にかけて決めました。ボールペンの製造会社の協力を得て印刷してあります。受験を目指す高校生たちがキャンパスを見学するオープンキャンパスで配るほか、

設置や、自作した野菜類を学生食堂で提供、売り上げの一部を寄付する試みもあります。募金貢献型の自販機は、購入者には負担をかけず、清涼飲料水のメーカーが売り上げの本数や金額に応じて一定の割合を共同募金会へ寄付する仕組みです。県内には100台ほ

ど設置されていて、昨年度の寄付は約170万円にものぼりました。その自販機を大学の関係施設に新たに設置していく予定を立てています。野菜類の収穫は、横浜・金沢文庫キャンパスに農作業へ転用できる画があり、そこで農作物を育てる計画です。収穫した野菜類を学生食堂で食材として活用する方向で計画

されています。さらに、収穫した農作物を素材に「赤い羽根レシビ(メニュー)」を開発し、大学食堂や飲食店とも連携、売り上げの一部を地域福祉の財源(共同募金)に還元されるシステムをつくることも大学側から提案されています。成果が期待されています。

関東学院は学院内、国内だけではなく、海外でもボランティア活動を積極的に実践しています。タイ国で、山岳少数民族と定期的に触れ合いながら学ぶ実践です。大学で学んだ知識を、学外で行う奉仕活動などと組み合わせることで、社会問題の解決につながる手法です。体験教育の側面も併せ持つ活動は春と夏、年2回行っています。



ボールペンのデザインを熱心に考える学生たち



オリジナルメッセージが添えられたボールペン

この事業が共通テーマに沿い、地域ボランティア団体を中心となって行う認知症の高齢者や障害者、子育て中の親子たちを対象としたコミュニティファーム(地域開放型農園)を運営していく企画と評価し、資金を配分することにしました。

事業には大学が全面的に協力しています。耕作用地や会議室の提供をはじめ、学生ボランティアの参加などが予定

現地には大学公認のボランティアサークルに所属する学生と教員が出かけ、水道工事や生活に必要な各種施設の建設、生活環境調査などを行っています。旅費などの経費は自己負担ですが、それでも毎回10人前後が応募します。参加した学生の声を聞くと、現地の人たちと触れ合う中で、お互いの価値観の違いを知ったり、いろいろ学ぶことが多いようです。

奉仕の精神に基づいた多彩な活動が計画、実践される中、これまで脈々と受け継がれてきた関東学院の建学の精神、校訓が、これからも絶えることなく、さらに盛り上がり次世代へ伝えられていくよう期待が募ります。

このほかにも、募金貢献型の清涼飲料水の自動販売機